

平成 25 年度第 1 回獣医学術功績者選考委員会の会議概要

I 日 時 平成 25 年 11 月 18 日 (月) 13:00 ~ 14:30

II 場 所 日本獣医師会・会議室

III 出席者

【委員長】 酒井 健夫 日本獣医師会学術担当理事、麻布大学客員教授

【産業動物部門委員】

小形 芳美 山形県農業共済組合連合会家畜部長
佐藤 繁 岩手大学農学部教授
澤田 勉 大阪府立大学名誉教授
白井 淳資 東京農工大学農学部教授
中尾 敏彦 元山口大学農学部教授

【小動物部門委員】

大草 潔 仙台市獣医師会会長、大草動物病院（仙台市）院長
岡野 昇三 北里大学獣医学部教授
佐藤れえ子 岩手大学農学部教授
西村 昌教 帯広畜産大学名誉教授
丸尾 幸嗣 岐阜大学応用生物科学部教授

【公衆衛生部門委員】

石黒 直隆 岐阜大学応用生物科学部教授
植田富貴子 日本獣医生命科学大学獣医学部教授
丸山 総一 日本大学生物資源科学部教授

【欠席委員】

山田 章雄 東京大学大学院農学生命科学研究科教授
山本 茂貴 東海大学海洋学部教授

【本 会】 矢ヶ崎忠夫（専務理事）

IV 議 事

- 1 副委員長の選任
- 2 平成 25 年度日本獣医師会獣医学術賞（獣医学術奨励賞、獣医学術功労賞）の選考・審査等

V 会議概要

開会に当たり、矢ヶ崎専務理事から挨拶が行われた後、委員の出欠の確認が行われ、欠席委員からは各部門副委員長への委任状が提出されていることが事務局から報告された。

1 副委員長の選任

各部門における委員の互選により、産業動物部門は中尾委員、小動物部門は佐藤委員、公衆衛生部門は石黒委員がそれぞれ副委員長に選任された。

2 平成 25 年度日本獣医師会獣医学術賞（獣医学術奨励賞、獣医学術功労賞）の選考・審査等

事務局からの日本獣医師会獣医学術賞に関する規程の説明に続いて、獣医学術奨励賞については日本獣医師会雑誌に掲載された研究論文（原著・短報）の中から、獣医学術功労賞については推薦のあった業績の中から、それぞれ部門ごとに選考が行われた後、各部門の副委員長から審査結果と選考理由がそれぞれ以下のとおり報告された。

【 産業動物部門 】

〔 獣医学術奨励賞：候補業績 50 題から選出 〕（第 64 巻第 10 号掲載）

兵庫県中部におけるアカバネウイルスによる子牛の非化膿性脳脊髄炎と

先天性奇形を伴う異常産の発生 富田啓介（兵庫県姫路家畜保健衛生所）、他

<選考理由> アカバネ病で生後感染を起こす原因は genogroup I であることが知られていたが、本研究によって genotype II も子牛への生後感染を起こし、genogroup II の中でも病原性の違いがあることが明らかにされた。今回の研究で分離されたウイルスは、S RNA 分節の系統樹解析では Okayama2004 株と近縁で、生後感染型の脳脊髄炎を起こすことが知られている Iriki 株や、2006 年流行株とは異なる genogroup II に属した。genogroup II の JaGAR39 株や OBEh1 株は、牛においては脳内接種しないかぎり脳炎は起こさないとされてきたが、今回の子牛の脳脊髄炎の流行は、genogroup II に属するアカバネウイルスでも、先天性奇形を伴う異常産に先立ち、子牛の脳脊髄炎の原因となることが明らかになった。このことは世界でも最初の発見であり、学術的に高く評価されることから、獣医学術奨励賞として推薦する。

〔 獣医学術功労賞 〕

産業動物の獣医繁殖学に関する研究と普及

澤向 豊（酪農学園大学・元教授）

<選考理由> 澤向 豊氏は、北海道内の農業共済組合家畜診療所及び北海道農業共済組合連合会家畜臨床講習所において長年にわたり産業動物診療と中堅臨床獣医師の卒後教育に従事しながら、産業動物獣医繁殖分野の研究・普及に多大な成果を挙げた。その後、酪農学園大学獣医学部獣医繁殖学担当教授に就任し、産業動物の繁殖管理及び繁殖障害に関する先端的研究を進め、多くの業績を挙げられた。これらの研究業績と指導及び普及の成果は、産業動物獣医学の振興と普及に大きく貢献することから、獣医学術功労賞に該当するものである。

【 小動物部門 】

〔 獣医学術奨励賞：候補業績 53 題から選出 〕（第 64 巻第 10 号掲載）

犬猫の各種感染症における原因菌とアンチバイオグラム

嶋田恵理子（みやもと動物病院・山口県）、他

<選考理由> 本論文は、犬猫の各種感染症症例の臨床材料を用いて、原因菌と薬剤感受性を検討し、アンチバイオグラムを作成したものである。アンチバイオグラム（抗菌薬感受性率表）は経験的初期治療を適切に行うために必要なものであるが、獣医療分野では報告がなく、そのために不適切な抗菌剤の投与や耐性菌を増やす危惧がある。本研究の成果は、初期治療における重要な情報を提供するとともに、今後、より広範囲で最新の検討によるアンチバイオグラム作成の重要性を示した点で受賞に値するものであることから、獣医学術奨励賞として推薦する。

〔 獣医学術功労賞 〕

犬猫の脊椎・脊髄疾患の診断・治療

中山正成（日本小動物獣医学会・元副会長）

<選考理由> 中山正成氏は、長年に亘り獣医学臨床分野の充実と獣医学臨床研究の発展に尽力され、小動物診療分野における新しい手術器具の開発やX線フィルムボディマーカの開発などの診療技術情報を幅広く発信し続けてきた。また、北里大学非常勤講師や、大阪府立大学臨床指導教授、帯広畜産大学臨床指導教授を務められ、大学における臨床教育にも尽力するとともに、学術誌において多数の論文を公表した。これらの活動は、小動物獣医学に関する学術の振興と普及に多大な効果を上げていることから、獣医学術功労賞を授与するのに相応しいと考えられた。

【 公衆衛生部門 】

〔 獣医学術奨励賞：候補業績 15 題から選出 〕（第 66 巻第 5 号掲載）

山口県内のペットショップで販売されている爬虫類のサルモネラ保有状況
及び薬剤感受性

亀山光博（山口県環境保健センター保健科学部）、他

<選考理由> 本論文は、ペットショップで販売されている爬虫類 139 検体でのサルモネラの保有状況について広範囲に調査し、サルモネラ保有率が全体で 50% と高いことを明らかにした点は高く評価できる。また、爬虫類から分離したサルモネラは薬剤耐性率が高いなど、公衆衛生上の重要な知見を示したことから、本論文は獣医学術奨励賞に値するものであり推薦する。

〔 獣医学術功労賞 〕

食の安全と感染症制御に関するリスクコミュニケーション活動とその啓蒙

岡本嘉六（鹿児島大学・名誉教授）

<選考理由> 鹿児島大学名誉教授・岡本嘉六氏は、農場から食卓までの食品安全性確保及び感染症制御の研究に長年従事し、HACCP やリスク解析などの調査研究を行ってきた、特に、リスクコミュニケーション活動を幅広く実践し、獣医師の生涯教育に大きく貢献した。長年にわたり我が国の獣医公衆衛生学の発展に大きく貢献していることから、獣医学術功労賞を授与するに相応しいと判断した。

VI まとめ

平成 25 年度第 1 回委員会は、酒井委員長によって以下のとおりまとめられた。

- 1 平成 25 年度第 2 回委員会は平成 26 年 2 月 22 日（土）、平成 25 年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会（千葉）の会場である幕張メッセにおいて開催すること。
- 2 平成 25 年度日本獣医師会獣医学術賞の発表と授与は、平成 25 年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会（千葉）の場において行うこと。